

【科目名】	自然科学概論		Science of Light		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	橋本 博				
【担当教員】	橋本 博、原 幸大、菱木麻美、洲上壮太郎、轟木堅一郎、兒島憲二、古庄 仰、近藤 啓、照喜名孝之				
【授業目標】	現代は科学技術の時代である。この科学技術の中核を担う物理学、化学そして生物学は、西洋世界でどのような経緯で生まれ、発展してきたのだろうか。この自然科学の発展に伴い、我々の自然観、科学観も大きく変質してきている。また、現代のイノベーションを推進する巨大科学とプロジェクト科学、および環境との共生を目指す視点が求められている。さらに、エセ科学の蔓延などの問題も抱えており、生命観、宗教観および倫理観までの波及を思考することが求められている。これらの問題意識をもって、西洋2000年の通史を俯瞰し、最新の科学と技術も多面的にとりあげる。この温故知新より、科学研究の本質あるいはその精神といえるものを理解していただけるだろう。				
【授業概要】	大まかに次の4主題に別けて概説する。 1. 自然科学通史（自然哲学から近代科学へ、科学倫理） 2. 光と物質（光とは何か、量子化学の誕生、原子・分子が見える） 3. 「はかる」の科学 4. 環境、健康科学での科学技術の展開				
【授業方法】	配布するプリントを使用したオムニバス講義を行う。演習形式も取り入れた形成評価も実施して学習効果を計る。対面授業を予定しているが、状況に応じて遠隔講義となる可能性もある。				
【授業展開】	（ ）内はキーワード 1. 科学史 2. 科学論文 3. 科学技術と科学者の役割 4. 光の科学史 5. 波動の性質 6. 計算科学の発展 7. 分析科学とは（分析技術の進歩、これから目指すもの） 8. 臨床と分析科学（画像診断、診断キット、遺伝子診断など） 9. 食品と分析科学（食品分析、機能性表示食品、残留農薬分析など） 10. 裁判と分析科学（科学鑑定、DNA鑑定、薬物鑑定、ドーピング検査など） 11. 環境と分析化学（環境分析、年代測定、放射線測定など） 12. 先端技術と倫理（1） 13. 先端技術と倫理（2） 14. AIと生命倫理 15. まとめ（現代科学技術の問題点など）				
【履修条件】	理（医療）系の学生を主な対象としているが、文系の学生にも分かり易く説明し、数式などはあまり使わない。				
【評価方法】	授業への取り組み、課題、レポートなどの総合評価。				
【テキスト】	なし（必要に応じてプリントを配布）。				
【参考書】	随時指定（図書館に配備されているものを指示する）。				
【備考】	・講義ごとに演習、レポート作成を課すので、遅刻などは厳禁である。全講義回数の3分の2以上の出席を単位認定のための必要条件とする。薬学部の生命物理化学分野、生体機能分子分析学分野、創剤科学分野の構成教員が分担する。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、企業の研究開発業務で考慮されている倫理観を交え、科学・技術の進展と生命倫理について解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	聴講可	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	茶学入門		Introduction to Tea Science		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	*中村 順行				
【担当教員】	*中村 順行 他				
【授業目標】	静岡に立地する本学学生の教養として、茶に関する広範な知識を学ぶ				
【授業概要】	静岡県は全国有数の茶葉、飲料、加工食品の生産県であり、本学を含めた複数の大学や国公立の試験研究機関、民間企業において茶関連の食品、医薬品、化成品の研究が活発に行われている。したがって本学の学部生や大学院生はそれらを就職先として考えることも多い。また、静岡県においても「茶の都」づくりの推進や本学内にも茶学総合研究センターの設置など、茶をKeywordとした取組も多い。このような背景のもと、学生には、学部を問わず茶に関する広範な知識と教養を身につけることが望ましい。そこで、当科目は茶についての歴史、文化、経済、生産、加工、味、香り、生理機能、茶の多用途利用・商品化など広範な項目をそれぞれの専門家に解説して頂き、知識を深める				
【授業方法】	プリントやプロジェクターを使った対面式講義				
【授業展開】	1. ガイダンス：講義の進め方、成績評価方法、茶学に関する概説等 2.3. 茶の歴史、文化：茶の起源、飲用方法、茶にまつわる因習等の文化的、歴史的な面についての概説 4.5. 茶の種類、生産、加工、飲用方法：多種多様な茶種が栽培、加工されており、それに関する最先端技術の紹介、各茶種の特性を活かした、茶の淹れ方、飲用方法について科学的な概説 6.7.8.9. 茶の機能：茶を特徴づける成分について、その特徴、機能、効能等を化学的、生理的に概説 10.11.12. 茶に関わる商品開発、マーケティング：茶の多彩な商品開発への展開、消費者へ届くマーケティング戦略、茶畑の景観を生かしたグリーンティーズム等 13.14.15. 茶の静岡県、日本、世界へ向けた施策及び、次世代への展望： 静岡県の茶の都づくり、世界へ向けた日本茶の輸出についての取り組み、茶の特性を活かした、次世代への展開について概説、総括				
【履修条件】					
【評価方法】	原則的に、授業への取り組み姿勢及びレポート・小テストなどにより評価する				
【テキスト】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【備考】	講師陣として、茶関連研究の第一人者をゲストスピーカーとして招きつつ、幅広く茶学の初歩部分全般を講義する				
【社会人聴講生】	社会人聴講生は30名まで	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	基礎生命科学Ⅱ		Introduction to Life SciencesⅡ		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	金曜1限	
【科目責任者】	Toshiro Ohta（太田敏郎）				
【担当教員】	Toshiro Ohta（太田敏郎）				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論ではなく、生命科学(医学・食品栄養科学)分野の基本的な英語表現に慣れ親しみ、英文を読解・作文・聞き取り・発声する能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力も強化。主に1~2年生(大学初~中級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、インプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3~4年生への対応も目的の一つ(意味を正確に理解した英文と単語・フレーズの大量インプット&忠実アウトプット演習)。				
【授業概要】	Students will translate news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences into Japanese and back into English. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. DUO, a general-purpose wordbook, will be used for vocabulary building. 1. 世界的な英語教材Voice of America(略してVOA)生命科学記事の和訳演習:視覚的な構文解析と実用的な文法解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(VOA聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能をペアワーク):基礎生命科学Iの後半部分 4. 大学入学後に学ぶべき実用英語への導入として、冠詞(定冠詞・不定冠詞・無冠詞)・限定詞と句動詞について文法解説 5. 学生からの要望が多いTOEIC対策(任意受講の予定):後期はp2,p3&4(前期にp2)				
【授業方法】	対面授業が原則、授業時数の半数を超えない範囲で遠隔授業を実施(詳細はUNIPA授業資料でご確認ください) ※DUO演習は友人とペアワークすることで効果やモチベーションが向上(1人で受講の場合は教員が相手を指定)				
【授業展開】	1. Course Introduction: Voice of America Learning English program 2-5. Fat Cell Gene Linked to Colon Cancer 6-8. Long History, Unclear Future for 'Golden Rice' 9-11. Gut Bacteria: We Are What We Eat 12-14. Progress Made in Fight Against Ebola 15. Course Summary DUO vocabulary exercises and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細はUNIPA授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で英語力不足を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、英文法を包括的に学ぶ実用科学英語基礎編と並行してこの基礎生命科学IIで個別的文法事項について学ぶことを強くお勧めします。参考までに、過去のアンケートでは後輩に薦めたい点としてDUOペアワーク演習が圧倒的に多く挙げられていました(この演習が気に入って前期の基礎生命科学Iから継続して受講する学生も多く、TOEIC高得点の学生にも好評)。				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には3分の2以上の出席が必要。				
【テキスト】	「DUO 3.0」 鈴木陽一 著 [アイシーピー](全員購入必要)、VOA episodes and other materials will be handed out.				
【参考書】	UNIPA授業資料で紹介予定				
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学II:主に1~2年次対象、大学英語の基礎、上級生も可(大学初~中級、TOEIC初~中級、前期基生科Iの継続) DUO語彙演習(TOEIC対策にも有効)、VOA和訳&英訳演習と個別的文法解説、TOEICp2,p3&4演習(任意受講の予定) 2. 実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC対策:p5&6コツ解説&演習と簡便なp2演習 ※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 基礎生命科学I:後期の基礎生命科学IIの前半に相当 4. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1-4即効テク解説、p2~4熟練スキル演習&解説				
【社会人聴講生】	可(要相談)	【科目等履修生】	可(要相談)	【交換留学生】	Possible(可)

【科目名】	哲学入門		Introduction to philosophy		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	飯野勝己				
【担当教員】	飯野勝己				
【授業目標】	・哲学とは何か、何を問題にし、どのように考えてきた営みなのかについての理解を得ること。 ・哲学史の大きな流れをつかみ、その長い歴史でどのような思考が紡がれ、どんな世界観や人間観が形成されてきたかを知ること。 ・自分自身が感じる素朴な疑問や謎について、哲学ではどのような問題としてとらえられ、どのように考えられてきたかを知ること。 ・最も重要なこととして、哲学に触れることを通じ、〈あたりまえ〉を疑い、「自分自身の言葉でものごとを根本から考える」という姿勢を身に付けること。				
【授業概要】	「テツガクってちょっと魅力的だけど難しそう」――多くの人がそう思っている。実際、哲学書にはきわめて難解なものが多いのも事実だ。しかし一方で、哲学は非常に「身近」なものでもある。誰もが感じる素朴な疑問や不思議、子供のころからひそかに思ってきたさまざまな「なぜ?」、そういう身近で素朴なところから、哲学は始まる。「現実とはもしかしたら夢かもしれない」「どうして他人に心があるといえるのか」「自分はなぜまさにこの自分なのか」といったことをなんとなく考えるとき、人はもう哲学を始めている。哲学が難しいのは、いろいろな「あたりまえ」を取り払って、こういう素朴な疑問にできるかぎり「素」の状態で行き届くとする営みだからだ。 この授業は、そんな哲学の世界への入口へ、できるだけわかりやすく案内することを目的とする。 哲学への「入り方」には、大きく二つある。一つは、2000年以上にわたる哲学史の中で哲学者たちが何をどう考えてきたのかを、大きな流れをつかみつつ知ること。もう一つは、上で述べたような個々の具体的な疑問やテーマから入ること。どちらも有効なアプローチだし、それぞれに面白さがある。とはいえこの授業では、哲学の入り口として、長い哲学史のなかで個性豊かな哲学者たちが繰り広げてきた思考のドラマをたどるのが、入門編としてまずは最良だと考える。人物像やエピソードの面白さや、奇妙だけれど魅力的で、よく考えれば納得感もあったりするさまざまな世界観／世界像が、そこでたっぷりと味わえるからだ。 そこでこの授業はまず序盤で「哲学とは何か?」についていくつかの角度から紹介したあと、中盤から終盤にかけての大半を使い、哲学史を紹介・解説していく。さまざまな対立や紆余曲折を経ながらも、哲学的思考の流れは大きくうねりつつ継承され、現代までつながっている。そして最終盤では、現代哲学のさまざまな流派やそこで議論されているアクチュアルな問題を紹介し、現在進行形の哲学の姿を素描する。哲学は「古い学問では?」というイメージが強いかもしれないが、実際は現代社会のリアルな問題もさかんに議論されているのだ。 この授業を通して、〈あたりまえ〉をうのみにせず、自分自身の頭でものごとを考える姿勢をつかんでもらいたい。				
【授業方法】	対面授業で行う。毎回の授業資料は事前にユニバで配布するので、必ず確認して授業に持参すること（プリントを推奨するが、PC等での持参も認める）。またユニバでは毎回レスポンスペーパーのフォーマットも配布するので、感想・質問がある人はメール添付で提出すること。				
【授業展開】	1. ガイダンス――哲学と出会う、ということ 2. 哲学のさまざまな顔――多面体としての哲学、そして反哲学 3. 古代①：哲学はいつ、どこで始まったのか?――哲学の3つの故郷 4. 古代②：ソクラテスの「愛知（ピローソピア）」活動 5. 古代③：哲学の基本形と可能性(1)――プラトン哲学 6. 古代④：哲学の基本形と可能性(2)――アリストテレス哲学 7. 古代⑤：後期古代哲学――ヘレニズム哲学と新プラトン主義 8. 中世：中世哲学――信仰と哲学の一体化と相克、そして近代への胎動へ 9. 近代①：近代哲学の出发点――デカルト哲学 10. 近代②：大陸合理論の魅惑的な世界観――スピノザとライプニッツ 11. 近代③：実は過激なイギリス経験論――ロックからヒュームへ 12. 近代④：近代哲学最大の分水嶺――カント哲学 13. 近代⑤：近代哲学の終着点――ドイツ観念論とヘーゲル 14. 現代①：現代哲学への転換点――マルクス、ニーチェ、フロイトの「反哲学・反理性」 15. 現代②：20世紀～21世紀哲学――哲学はいまも、これからも動き続ける				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組みと期末レポート。				
【テキスト】	特に指定しない。				
【参考書】	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書） 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（中公新書） 飲茶『史上最強の哲学入門』（河出文庫） その他、適宜授業のなかで紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目履修生履修可	【交換留学生】	交換留学生可

【科目名】	心理学入門	Introduction to psychology			
【開講時期】	2025年度後期	【開講時限】	金曜1限		
【科目責任者】	西田公昭				
【担当教員】	西田公昭				
【授業目標】	さまざまな心理学の研究から現代社会における人々の生活を説明する。何気なく過ごす日常生活を中心に心理学的に分析し思考力を養うことを目的とする。				
【授業概要】	現代心理学について、体系的に概観する。その上で、各自が日常的に経験する出来事を、心理学的に分析し、理論的に検討する。				
【授業方法】	講義形式で進める				
【授業展開】	1 心理学の体系：現代心理学の世界をひとめぐりし、生活と心理学との関係を概説する 2 知覚1：心理的現実とは何か 3 知覚2：外界を認知する仕組み 4 学習心理学1：3つの基礎的理論 5 学習心理学2：ヒトは経験をどのようにとらえるのか 6 発達心理学：生涯発達の理論 7 認知心理学1：意識と記憶 8 認知心理学2：記憶の構造 9 認知心理学3：思考と行動 10 感情心理学1：動機づけ：喜怒哀楽や愛のしくみをさぐる、友人や恋人関係への発展メカニズム 11 感情心理学2：情動（恋愛を中心に） 12 感情心理学3：ストレス 13 心理査定：知能や性格を測るには？ 14 社会心理学1：社会的な現実と状況の力 15 社会心理学2：マインド・コントロール現象の心理学的理解				
【履修条件】	心理学を積極的に勉強する意欲のある者に限る。				
【評価方法】	リアクション課題（毎回）				
【テキスト】					
【参考書】	授業時に指示				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	薬剤発達史入門		Introduction to history of the Drugs		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	金曜1限	
【科目責任者】	*内田信也				
【担当教員】	*内田信也、石川智久、*伊藤邦彦、*尾上誠良、黒川洵子、*森本達也、*辻 大樹				
【授業目標】	文系・理系に関係なく、各専門領域を学ぶ際のモチベーションを高め、問題解決の糸口がつかめるようになるために、くすりや医療の発展におけるエピソードを通して難問に対する取り組み方を具体的に説明できる。				
【授業概要】	人類の繁栄に大きく貢献してきたくすりの発見や開発に関わってきた人々のひらめき、取り組み方、苦悩・挫折をナラティブに学ぶことで、学問に対するモチベーションを高めると共に、難問を解決するための前向きの姿勢や手法を修得する。 薬学部の教授陣が、文系の学生にも理解しやすいように難解な数式を使わず、平易に医薬品開発の歴史を説明する。				
【授業方法】	テキスト、パワーポイント、プリント等を用いて講義形式で進める。 基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【授業展開】	1 ビタミン学のはじまり 2 生命現象解明へのアプローチ 3 視床下部ホルモンをめぐる闘争 4 ノーベルが欲しかった化合物 5 毒トカゲが糖尿病の救世主?! 6 生物における右と左の秘密 7 漢方薬から覚醒剤 8 ヤナギの小枝が痛みを止めた 9 結晶化された初めてのホルモン 10 毒ガスから生まれた制ガン剤、解明されたフグ毒の不思議 11 遺伝子の正体の解明、遺伝子治療へのアプローチ 12 最長の歴史を持つ医薬品、脳内にあったモルヒネ様物質 13 化学療法のはじまり 14 化学者が放った魔法の弾丸 15 まとめ				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	原則として、課題レポートに加えて、ミニレポートや出席態度等授業への取り組みを考慮して総合評価する。 全講義回数の2/3以上の（出席及びミニレポートの提出）が単位認定に必須である。				
【テキスト】	<テキスト>東京化学同人 化学のとびらシリーズ27 「歴史の中の化合物 くすりと医療の歩みをたどる 山崎幹夫著				
【参考書】	特になし				
【備考】	基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。 実務家としての経歴 *内田信也：薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する *伊藤邦彦：薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する *尾上誠良：製薬企業の研究者としての経験を生かして、新薬開発のプロセスとその成果を解説する *森本達也：医師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する *辻 大樹：薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	宗教学入門		Introduction to religion		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	佐藤清子				
【担当教員】	佐藤清子				
【授業目標】	●宗教がかかわる諸問題について知識を身に着ける ●宗教がかかわる諸問題について多角的な視点から考察できるようになる ●宗教がかかわる諸問題について自分の意見を論理的に表明できるようになる				
【授業概要】	現代日本の多くの大学生にとって、宗教はなじみのないものと感じられるかもしれない。だが、世界的に見れば宗教をもつ人は多数派であり、一見宗教とは何の関係もなさそうなところに宗教的なものが見いだされることもある。宗教がかかわる事件は近年も国内外で発生しており、宗教は現代社会に対しても大きな影響を与えていることが改めて明らかとなったといえよう。 授業では宗教学的な思考の基本を、学生にも積極的に参加してもらうアクティブラーニングの方法で紹介する。教科書として、大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学〔第2版〕』（世界思想社、2024年）を用いる。授業での学習を通じて、宗教についての知識を得るとともに、宗教がかかわる問題を自分事としてとらえる視点を養ってほしい。 ＊教科書は2024年出版の第2版を使用する。版に注意して用意すること。				
【授業方法】	教科書は事前に一度読んでおき、簡単なワークを終えておくこと。授業では教科書の内容を説明し、その後ワークを踏まえたディスカッションを行う。				
【授業展開】	1 イントロダクション 2 第1章 「宗教」はどのようにイメージされるのか？―「信仰のない宗教」、宗教情報リテラシー、「宗教」概念（大谷栄一） 3 第2章 お寺や神社、教会はどういう場所なのか？―過疎、人口減少社会、ソーシャル・キャピタル（板井正斉） 4 第4章 なぜ成人式を行うのだろうか？―信仰、アイデンティティ、通過儀礼（相澤秀生） 5 第5章 お祭りにはどんな意味がある？―祭祀、祝祭、コミュニティ文化（藤本頼生） 6 第6章 巡礼者は何を求めて聖地に向かうのか？―聖地、世界遺産、真正性（碧海寿広） 7 第7章 いのちを教えることができるのか？―寛容の態度、宗教文化教育、道徳の教科化（川又俊則） 8 第8章 「女人禁制」はつづけるべきか？―霊山、ジェンダー、家父長制（小林奈央子） 9 第9章 「カルト問題」にどう向きあうか？―カルト、偽装勧誘、マインド・コントロール（塚田穂高） 10 第11章 ヴェールはなぜ問題となるのか？―オリエンタリズム、ポストコロニアル、フェミニズム（猪瀬優理） 11 第12章 日本社会は移民とどう向きあうのか？―入国管理法、多文化共生、エスニシティ（白波瀬達也） 12 第13章 なぜ墓参りをするのか？―先祖／祖先、葬後儀礼、両墓制（川又俊則） 13 第14章 戦没者をどこで追悼する？―靖国問題、「戦争の記憶」、コメモレイション（大谷栄一） 14 日本の無宗教を考える 15 全体のまとめ				
【履修条件】	授業はすべて教室で対面にて実施する				
【評価方法】	平常点(予習状況、ディスカッションへの参加) 60％ 最終レポート 40％				
【テキスト】	大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学〔第2版〕』（世界思想社、2024年） ＊教科書は2024年出版の第2版を使用する。版に注意して用意すること。				
【参考書】	授業中適宜指示する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	文化人類学入門		Introduction to cultural anthropology		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	金明美				
【担当教員】	金明美				
【授業目標】	本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。				
【授業概要】	文化人類学に特徴的なのは、参与観察やエスノグラフィーというフィールドワークの調査や記述の方法です。現在では、様々な分野で応用されていますが、文化人類学においては、自らが慣れ親しむ「日常」を離れ、現場（フィールド）へと向かい、そこでの経験や他者からの学びを通して、様々な社会や文化の内在的な理解を目指すということを最も重視しています。 この方法は、グローバル化や情報化が進展する一方、コミュニケーション上の諸問題が世界各地で生じている現在、異文化理解の方法として、その重要性が一層増していると考えられます。しかし、文化人類学の歴史は、異文化理解という肯定的な面だけではありませんでした。植民地主義をはじめ支配／被支配の問題と少なからず関係してきた部分があり、そうした面の克服も学問的な課題として取り組んできました。よって文化人類学の学説史を知ること、現在の世界各地で起こっている様々な争いや葛藤等を理解する上での重要なヒントを得られるといえるでしょう。 本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。 ところで、学説史とは、学問としての文化人類学がとる方法論上の理論的根拠についての議論の歴史です。理論的な話ですから難易な部分もありますが、それらの理論は特定の社会や文化についての日常的な参与観察から立ち上がったものでもあります。よって、理論的な話も、そうしたことを踏まえて理解を進めると、必ずしも難しいものではありません。教科書もそのような観点から書かれています。とはいえ、教科書の内容は一読してすぐ分かるようなものではありません。初学者にとり難しい部分がありますので、授業では、毎回取り上げる章の中で重要な部分を中心に、それらをなるべく噛み下いた形で解説します。講義を受講し、自ら考え、予習・復習をきちんと行えば、教科書の内容を把握することが可能になるでしょう。 ぜひ文化人類学という学問（これも一つのフィールド！）の世界に足を踏み入れてみてください。				
【授業方法】	基本的には教科書の章立て順に授業を進める（但し、受講人数や進み具合によって授業展開の予定を変更することもありうる）。関連映像を利用し、またパワーポイントも使用する。対面授業を予定しているが、対面授業を避けた方がよいと判断される場合は遠隔講義（オンデマンド型と同時双方向型の組み合わせ、授業資料提示や課題提出はユニバを利用）を行う。				
【授業展開】	第1回 ガイダンス、文化人類学を学ぶために 第2回 文化人類学とはどのような学問か？ 第3回 進化主義と伝播主義 第4回 近代人類学の夜明け（1）マリノフスキーをめぐって 第5回 第4回の続き、ビデオ視聴 第6回 近代人類学の夜明け（2）ラドクリフ＝ブラウン 第7回 第6回の続き 第8回 アメリカ文化人類学の出発：ボアズとその弟子たち 第9回 第8回の続き 第10回 構造主義以前の文化人類学 第11回 構造主義の系譜 第12回 第11回の続き 第13回 構造主義と文化相対主義 第14回 第13回の続き 第15回 まとめ、ビデオ視聴など				
【履修条件】	集中講義(後期)の期間中の出席が可能な人				
【評価方法】	毎回の講義内容に関する小レポート				
【テキスト】	原尻英樹『文化人類学の方法と歴史』〈新装版〉2015年、新幹社、2,200円＋税、(ISBN) 978-4-88400-113-1（ネット上の書店や大学内の書店等で購入してください）				
【参考書】	奥野克巳『はじめての人類学』、2023年、講談社、900円＋税、(ISBN) 978-4-06-532857-6				
【備考】					
【社会人聴講生】	可（但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある）	【科目等履修生】	可（但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある）	【交換留学生】	

【科目名】	静岡地域食材学B		Local Food Materials B		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	江口智美				
【担当教員】	市川陽子、江口智美、下山田真、増田修一、*静岡県工業技術研究所の研究員（特別講師）ほか				
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。				
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。Bでは、おもに静岡県の優れた食品加工技術や機能性食品、未利用資源の活用などについて取り上げる。				
【授業方法】	対面授業。 本学教員と県内の研究所・企業・大学の講師によるオムニバス形式で、配付資料やスライドを使ってレクチャー形式の講義を行う。				
【授業展開】	1. オリエンテーション、静岡県の米料理・加工品 2. 静岡県の発酵食品（大豆を中心に） 3. 静岡県の缶詰産業（歴史で振り返る地域の活性化） 4. 静岡県の未利用資源①（鹿肉） 5. 静岡県の機能性食品（わさびほか） 6. 静岡県の水産加工品（かつお節、はんぺん） 7. 静岡県の未利用資源②（魚類） ※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合がある。				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。 出席は、原則として、授業回数の3分の2以上（5回以上）を必要とする。 レポートは、講義内容に関する200～300字程度のミニレポートを毎回課す。				
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【備考】	*特別講師の静岡県工業技術研究所の研究員、県内食品製造業の開発担当経験者、県内大学教員が、静岡県の特色ある加工食品の特徴や製造技術、流通や販売等について解説する。 初回授業日は、後期の8回目（2025年11月20日）。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	ムセイオン静岡－世界の文化遺産A		Mouseion-Cultural Heritage in the world A		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜2限	
【科目責任者】	立田洋司（たつた ようじ）				
【担当教員】	立田洋司 ※特別講師（未定）を招聘する可能性もある。				
【授業目標】	◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学ではない。「世界の文化遺産」と銘打ってあるとおり、文字通り貴重な地球上の文化遺産から人類の文化的足跡を追究し、ひいては諸君の世界観・人生観が広深化することに寄与することを期待している。 ◇さらに、諸君が今後、Nippon（日本）と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負や国際教養の涵養を目指すものでもある。 ＊諸君に心がけてもらいたいのは、何よりもまず、暗記的学習「cram-memorization」とステレオタイプの認識からの脱却である。そのためにもまず、無理に覚えようとはせず、五感・直感の鍛錬を第一に心がけてもらいたい。				
【授業概要】	◇単なる「ユネスコの世界文化遺産」の解説ではなく、文化や歴史の深奥に触れる。 ◇「世界遺産検定」などにも無論役立つが、もっと深い人間学的な問題、たとえば「人間は何故こういうものを創ってきたのか」「そのバックボーンは何だろうか」というようなことを思索する契機になれば、と考えている。 ◇基本的に辞書の教科書的な知識からは距離をおき、固有名詞や語彙を覚えることも強要しない。 ◇ネットでは調べられない、あるいは調べても肝腎なことはよく分からないようなことを重点的に講義。 ◇何よりも諸君には、五感を拓いて感性を鍛え、柔軟な思考能力を養ってもらいたい。 ◇大学で世界文化遺産を学ぶ意義、および国際教養としての世界文化遺産に対する知識を共に考えてもらいたい。				
【授業方法】	本授業は、独自に作成したプレゼンテーションによる。方針としては、受講生諸君が柔軟に対応・思索できるように、以下のことを心がける； ◇無理に文字面（もじづら）を覚えようとする必要が無い講義 ◇対象物（文化財）の意味やその捉え方を感覚的に把握できるよう、画像を多用したプレゼンテーション。 ◇立田が実際に現地調査・フィールドワークなどで見聞し、長年研究してきたものを中心に、実体験を交えて講義する。 ◇出来るだけ学際的な見地、すなわち文化史一般・芸術学・歴史学・美術史学などを含む総合的な見地から講義する。 ◇受講生諸君の「五感の開放」や「直感」、「感性的反応」を重視する。 ◇文字・用語に偏った教科書的な知識を強要しない。また、正誤（○×）を問うような課題は出さない。				
【授業展開】	◇予定としては、一応以下のような内容を考えている。 ①オリエンテーション＆或るエピソード（幾つかの話から選択して話す予定） ②スケールの大きな時空感覚を身に付けよう！→「現在・近過去・近未来への執着から離れて悠久の時空へ」 ③20歳代のアレクサンドロス3世（大王）は、人間文化に何をもたらしたのか？（※コスモポリタニズム時代の文化遺産） ④仏教と古代ギリシアには接点があった？→「ガンダーラ」という稀有な文化遺産。 ⑤黙示録と末法思想が残したもの（※言わば、現在ではなく未来に希望を託した時代の文化遺産）を並べてみると何が見えてくるだろうか？→カッパドキア（Cappadocia）の世界遺産紹介。 ⑥西洋キリスト教世界を感覚的に理解するための話＝「黒い聖母」。キリスト教文化の根幹とその文化遺産。 ⑦西ヨーロッパで最も古いキリスト教文化遺産とビザンティン世界（時間が許せば、日本文化との比較も通して） ※その他、コンテンポラリーなテーマに触れることも。 ※理解促進や内容改良のために変更もある。ただし、全体として講義する内容は、「世界の重要な文化遺産」であることに変わりはない。				
【履修条件】	とくに無し。敢えて言えば、「国際教養」の構築や「固定概念からの脱却」に関心のある者に聴いてもらいたい。				
【評価方法】	課題と授業への取り組み状況、出席状況による。 ※課題は試験またはレポート提出とするが、いずれの場合も教科書の知識や正解を問うものではなく、受講生諸君の感性から捉えた授業の感想を自分の文章で書いてもらう。				
【テキスト】	テキスト用の書物は使用しない。すべてオリジナルの講義資料による。				
【参考書】	必要に応じて、講義の中で紹介する。				
【備考】	場合により、また時間的に可能であれば、小講堂における視聴覚を交えた講義も考えている（未定）。				
【社会人聴講生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【科目等履修生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	ムセイオン静岡－世界の文化遺産B		Mouseion-Cultural Heritage in the world B		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜2限	
【科目責任者】	立田洋司（たつた ようじ）				
【担当教員】	立田洋司 ※特別講師招聘の可能性あり。				
【授業目標】	◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学ではない。「世界の文化遺産」と銘打ってあるとおり、文字通り貴重な地球上の文化遺産から人類の文化的足跡を追究し、ひいては諸君の世界観や人生観の深化を目標としている。 ◇さらに、諸君が今後、Nippon（日本）と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負と国際教養の涵養を目指すものでもある。 諸君に心がけてもらいたいのは、何よりもまず、暗記的学習「cram-memorization」とステレオタイプの認識からの脱却である。そのためにもまず、無理に覚えようとはせず、五感・直感の鍛錬を第一に心がけてもらいたい。				
【授業概要】	◇単に「ユネスコの世界文化遺産」を知るためではなく、文化の本質や歴史の深奥に触れる。 ◇「世界遺産検定」には無論役立つが、検定試験問題の正誤を超えた人類史的・人間学的な問題を考える。たとえば、「文化遺産の歴史的・地誌的背景」、「polyheism（仏教やその他の多神教）とmonotheism（キリスト教など）における文化的資質の差異」、「なぜローマとギリシアでは文化の質がこれほど違うのか」というような問題についてである。 ◇基本的にステレオタイプのな学習からは距離をおき、vividな捉え方を示唆する。 ◇それに関連して、固有名詞や語彙を受験時代のように覚えることは強要しない。 ◇ネットでは調べられない、あるいは調べても肝腎な意味の把握には至らないようなことについて重点的に講義。 ◇何よりもこれからの諸君には、できるだけ五感を拓き同時に感性を鍛え、柔軟な思考能力を磨いてもらいたいと考えている。				
【授業方法】	☆本授業は、独自に作成したプレゼンテーションによる。基本的方針としては、受講生諸君が柔軟に対応・思索できるように、以下のことを心がける； ◇無理に文字面（もじづら）を覚えようとする必要が無い講義 ◇対象物（文化財）の意味やその捉え方を感覚的に把握できるよう、画像を多用したプレゼンテーション。 ◇立田が実際に現地調査などで見て研究してきたものを中心に、実体験を交えて語る。 ◇出来るだけ学際的な見地、すなわち文化史一般・芸術学・歴史学・美術史学などを含む総合的な見地から講義する。 ◇受講生諸君の「五感の開放」や「直感」、「感性的反応」を重視する。 ◇教科書的な知識は問わないし、正誤（○×）を問うような課題は出さない。				
【授業展開】	① オリエンテーション&立田の実体験を基にしたエピソード ②,③ スペインは何故多くの魅力を持っているのか？（スペイン文化を知るための序章） ④ 日本人はほとんど知らない！ → イタリアが最も大事にしている文化遺産とは？ ⑤ 日本文化の世界的卓越性；奈良や京都はフィレンツェ（Firenze）などのルネサンス都市よりずっと古いという事実。 ⑥ 古代とキリスト教世界は、なぜ文化的資質がこれほど違うのか？（世界文化遺産から考える） ⑦ 文明の十字路・文化遺産の宝庫＝トルコ（アナトリア）；30年ほど前から日本人に人気の出たトルコ観光。だが、実際は想像以上に凄い！ ※時間があれば、カッパドキア(世界複合遺産)やサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路（ヨーロッパ最大規模の世界文化遺産）に関する各論的な話や、マルタやサルデーニャ、アルメニアやジョージアなどから、実体験を交えて語る。				
【履修条件】	なし。敢えて言えば、「国際教養」や「異文化」に関心のある者に聴いてもらいたい。				
【評価方法】	課題と授業への取り組み状況、出席状況による。 ※課題は試験またはレポート提出とするが、いずれの場合も教科書の知識や正解を問うものではなく、受講生諸君の感性から捉えた授業の感想を自分の文章で書いてもらう。				
【テキスト】	とくに無し。オリジナル講義資料による講義。				
【参考書】	必要に応じて提示する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【科目等履修生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【交換留学生】	可

【科目名】	くらしと化学A		Chemistry in Daily Life A		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	Hiromu Kondo				
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo				
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry at some level in order to understand the world around us.				
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.				
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.				
【授業展開】	1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity. 2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions 3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking 4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society 5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food, 6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc 7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,				
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.				
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数の2/3以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。				
【備考】	・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。 ・講義は原則、日本語で行う。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。 ・くらしと化学Aとくらしと化学Bは同一の内容である。したが、受講を希望する学生はくらしと化学Aまたはくらしと化学Bのいずれかを受講すればよい。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	くらしと化学B		Chemistry in Daily Life B		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	Hiromu Kondo				
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo				
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry at some level in order to understand the world around us.				
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.				
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.				
【授業展開】	1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity. 2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions 3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking 4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society 5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food 6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc 7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,				
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.				
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数の2/3以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。				
【備考】	・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。 ・講義は原則、日本語で行う。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。 ・くらしと化学Aとくらしと化学Bは同一の内容である。したがい、受講を希望する学生はくらしと化学Aまたはくらしと化学Bのいずれかを受講すればよい。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	経営分析入門A		Introduction to business analysis A		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史) ,竹下誠二郎（TAKESHITA Seijiro）,カウクルアムアン アムナー（KHAOKHRUEAMUANG Amnaj）				
【授業目標】	This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions . The course consists of four integrated parts: ・ Business analysis ・ Financial statement Information: ・ Tools of financial statement analysis: ・ Forecasting and valuation techniques: Students will develop these skills through analyzing oversea leading companies(e.g. Apple, Microsoft and Samsung) . And students will also learn framework of tea tourism in Japan.				
【授業概要】	This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.				
【授業方法】	Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.				
【授業展開】	1.Introduction to course:What is business and financial statement analysis? (Pro. Ueno) 2.Basic concept of business analysis(Pro. Ueno) 3. Efficiently and profitability analysis (Pro. Ueno) 4. Basic concept of management and governance(Pro. Takeshita) 5. Management and Governance:Comparison among Japan, Europe and US (Pro. Takeshita) 6. Strategy(Pro. Takeshita) 7. Fundamentals concepts of tourism and tea tourism (Pro. Khaokhrueamuang) 8. Review (Pro. Ueno)				
【履修条件】					
【評価方法】	Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights: ・ Class participation 10% ・ Assignments 20% ・ Final case analysis and presentation 40% ・ Final exam 30%				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】					
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	経営分析入門B		Introduction to business analysis B		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史) ,竹下誠二郎（TAKESHITA Seijiro）,カウクルアムアン アムナー（KHAOKHRUEAMUANG Amnaj）				
【授業目標】	This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions . The course consists of four integrated parts: ・ Business analysis ・ Financial statement Information: ・ Tools of financial statement analysis: ・ Forecasting and valuation techniques: Students will develop these skills through analyzing oversea leading companies(e.g. Apple, Microsoft and Samsung) .				
【授業概要】	This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.				
【授業方法】	Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.				
【授業展開】	Introduction to Business Analysis B 1. Segment analysis(Pro. Ueno) 2. Stock price Analysis(Pro. Ueno) 3.Case study1 (Pro. Ueno) 4. Sustainable Tourism (Pro.Khaokhrueamuang) 5. Case study 2 (Pro.Khaokhrueamuang) 6.Governance and Internationalization (Pro. Takeshita) 7. Case study3(Pro. Takeshita) 8. Review (Pro. Ueno)				
【履修条件】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【評価方法】	Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights: ・ Class participation 10% ・ Assignments 20% ・ Final case analysis and presentation 40% ・ Final exam 30%				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡA		Introduction to Japanese Linguistics ⅡA		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	In this course, we will focus on syntax, morphology, and semantics in Japanese. Students will be encouraged to acquire basic knowledge of Japanese linguistics and understand how to do linguistic research. This course is helpful for students who want to become a teacher of English or Japanese as a foreign or second language.				
【授業概要】	We will discuss several main issues in Japanese syntax, morphology, and semantics. Interesting phenomena will be explored from Japanese-and-English comparative perspectives.				
【授業方法】	集中講義（対面授業） パワーポイントの授業資料を用いながら、日本語の興味深い現象を英語と対照させながら考察して行く。				
【授業展開】	1. Syntax (3 weeks) Word Order Japanese Case-Marking System GA-NO Conversion 2. Syntax-Semantics (3 weeks) Argument Structure Scrambling Relative Clauses 3. Review and Summary				
【履修条件】	Students are required to attend every class and participate in class activities.				
【評価方法】	Class participation & summary report (40%) and Final Exam (60%)				
【テキスト】	Reading materials will be provided in class.				
【参考書】	Introduction to Japanese Linguistics Third Edition (Tsujimura, Blackwell) Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2018)				
【備考】	毎時間、講義の内容について質疑応答を行い、要点を整理します（英語・日本語）。 まとめ試験1回（In-class, 授業資料持ち込み可）（日本語・英語）				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡB		Introduction to Japanese Linguistics ⅡB		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	Noriko Yoshimura, Ph.D.				
【授業目標】	In this course, we will focus on discourse-pragmatics, language change, and language variation. Interesting phenomena in Japanese will be explored from Japanese-and-English comparative perspectives. This course will be helpful for those students who want to become teachers of English or Japanese as a foreign or second language.				
【授業概要】	集中講義（対面授業） パワーポイント資料を用いながら、日本語の興味深い現象を英語と対照させながら考察して行く。				
【授業方法】	Students are required to participate in class discussion. （毎講義、授業内容について質疑応答を実施し、要点についてまとめ、内容の理解を目指す。）（英語・日本語）				
【授業展開】	1. Syntax-Semantics Interface (2 weeks) Passives-2 types Passives in Infinitives 2. Pragmatics (2 weeks) Tense & Aspect Structural Focus 3. Language Change and Dialectal Variations (2 weeks) Historical Changes-Old Japanese & Middle Japanese Synchronic Changes-Interesting Dialectal Phenomena 4. Review and Summar				
【履修条件】	Students are required to submit a summary report in English or Japanese and pass a final exam.				
【評価方法】	Class discussion & summary report (40%) and a final exam (60%) （授業資料持ち込み可）				
【テキスト】	Materials will be provided in class.				
【参考書】	An Introduction to Japanese Linguistics (Tsujimura, N. Blackwell, 2014). Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2017年)				
【備考】	授業は原則として対面授業となります。				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	ジャーナリズム論		Journalism studies		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	金曜5限	
【科目責任者】	西恭之				
【担当教員】	＊小川和久、＊西恭之				
【授業目標】	民主主義におけるジャーナリズムの役割と、健康と安全へのリスクの報道の実態を理解し、メディアを通じた情報の受け手と発信者としての能力を高める。				
【授業概要】	災害・医療・食品など様々なリスクの報道を検証し、報道と誤報の構造をメディア組織と心理の両面から分析する。				
【授業方法】	対面授業。グローバル地域センター教員2名とゲスト講師がオムニバス方式で講義する。グループワークもおこなう。				
【授業展開】	第1回(10/3) なぜ、ジャーナリズム論か 第2回(10/10) メディアが見逃す危機管理の死角 第3回(10/17) 軍事報道が平和と安全を左右する 第4回(10/24) 誤報が平和を妨げる 第5回(10/31) 実名報道 第6回(11/7) ファクトチェック・ジャーナリズム (1) 第7回(11/14) ファクトチェック・ジャーナリズム (2) 第8回(11/21) 調査報道の方法 第9回(12/5) ジャーナリズムにおける中央・地方とジェンダー 第10回(12/12) ウェブジャーナリズムのゆくえ 第11回(12/19) 中国報道の取り組みと課題 第12回(1/9) 紛争地取材の取り組みと課題 第13回(1/15(木)) 食品・医療・環境のリスク認知 第14回(1/23) 安全・安心をどのように報道するか 第15回(1/30) 誤情報・偽情報対策とその限界 ＊講義内容および講義回の入れ替えの可能性がある。				
【履修条件】	無し				
【評価方法】	レポート50％、その他の課題30％、議論への参加20％				
【テキスト】	小川和久『メディアが報じない戦争のリアル』SB新書 猪谷千香『その情報はどこから?』ちくまプリマー新書 澤康臣『事実はどこにあるのか』幻冬舎新書 その他配布する。				
【参考書】	小川和久『フテンマ戦記』文藝春秋 同『危機管理の死角 狙われる企業、安全な企業』東洋経済新報社 同『メディアが報じない戦争のリアル』SB新書 同『日本人が知らない台湾有事』文春新書 その他紹介する。				
【備考】	＊国や自治体の防災・危機管理・安全保障政策の立案と検証に関わっている教員（小川はジャーナリストとしての経験も有する）が、これらの分野におけるジャーナリズムの役割と課題について講義する。また、現役ジャーナリストが、専門分野において担当した報道について講義する。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	静岡の市民活動		Civic Activities in Shizuoka		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	*木村綾				
【担当教員】	*東野定律、*木村 綾、谷 晃、高畑 幸				
【授業目標】	静岡県内のNPO等の市民社会組織の活動を理解し、それらへの参画の動機付けとする。				
【授業概要】	各回扱う対象は「授業展開」の通りとする。				
【授業方法】	各回、前半は講義形式で進め、後半は受講生による質疑・討論を重視する。				
【授業展開】	1. はじめに、市民社会組織の役割と位置づけ（東野、木村） 2. 福祉問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 3. 環境問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 4. 多文化共生を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 5. 男女共同参画を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 6. 市民社会組織を支援する民間の組織について、その現状と課題を学習する。 7. 地域課題の解決やまちづくり活動を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組み及びミニレポートで評価する。				
【テキスト】	なし				
【参考書】	別途、適宜各講師が配布する。				
【備考】	授業計画の詳細は最初の授業の際に知らせる。 受講者数は50名まで、先着順とする。 *行政経験、市民活動組織で活動する幹部クラスのスタッフがその実務経験を活かし、学生により現実に即し、理解しやすい講義を行う。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目等履修生履修可	【交換留学生】	

【科目名】	言語の学習・習得 II A		Introduction to Language Learning and Acquisition II A		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜2限	
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others clearly and concisely. 2. Students can critically read and analyze English journal articles on experimental studies of second language acquisition.				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods by which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture covering the following topics.				
【授業展開】	1. Introduction: A general view of L2 acquisition (1 week) 2. Aspect (3 weeks) ・ Form-before-Meaning Hypothesis ・ Telicity ・ Feature Assembly Hypothesis 3. Prosody (3 weeks) ・ Focus marking ・ Prosodic Boundaries ・ Prepositions and Articles 4. Topic-based presentation (1 week)				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the process of language acquisition. The course is conducted in English. この科目は英語で学ぶ授業ですが、英語力の向上を目指す受講生も歓迎します。				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	TBD				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II B		Introduction to Language Learning and Acquisition II B		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜2限	
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others clearly and concisely. 2. Students can critically read and analyze English journal articles on experimental studies of second language acquisition.				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods by which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture covering the following topics.				
【授業展開】	1. Pronouns in the discourse (3 weeks) ・ Overt and covert pronouns ・ Pronouns in L1 ・ Pronouns in L2 2. Answering strategies (2 weeks) ・ Types and characteristics ・ L1 English ・ L2 English 3. Prepositions (2 weeks) ・ Lexical and syntactic properties of prepositions ・ Prepositions in L2 4. Review & short presentation (1 week) (Takehome exam)				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the process of language acquisition. The course is conducted in English. この科目は英語で学ぶ授業ですが、英語力の向上を目指す受講生も歓迎します。 後期前半の科目からの続きとなるため、可能であれば「言語の学習・習得IIA」からの受講をお勧めします。				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	TBD				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線		Forefront of business in Shizuoka learning from corporate managers		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	火曜1限	
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡県内の企業経営者				
【授業目標】	静岡の経済や産業を支える企業とその魅力を知る。				
【授業概要】	皆さんは静岡県内の企業をどれだけ知っているだろうか。県内にはおよそ20万の事業所を抱え、全国4位の製造品出荷額を有する国内有数の工業地域で、産業のデパートとも称される。オートバイ、ピアノなどの輸出量では日本一を誇り、お茶や水産業など第一次産業も盛んである。東西の交通網や港湾を利用した6次産業化も進んでいる。本講義では、静岡の経済や産業を支え、経営革新や新製品・新技術開発、販路開拓等新たな成長分野に積極的に挑戦し、成功を収めている県内企業の経営者や現役社員に登壇頂き、経験に基づく講義を通じ、静岡県ならびに静岡の企業とその魅力を理解することを目指す。加えて、皆さんの就職やキャリアを考えるうえでの一助にしてもらいたい。多くの学生の受講を期待する。				
【授業方法】	企業の経営者や現役社員による講義および学生とのディスカッション。				
【授業展開】	下記は2024年度の実績である。2025年度の登壇企業については9月頃公開する。 1 (10/01) ガイダンス 本講義の概要説明 2 (10/08) 須山建設株式会社 (須山雄造 社長) 3 (10/15) さわやか株式会社 (富田 玲 社長) 4 (10/22) 豊田肥料株式会社 (豊田大介 社長) 5 (10/29) ミヤマ工業株式会社 (高崎尚紀 社長) 6 (11/12) くふうハヤテベンチャーズ静岡 (池田省吾 球団社長) 7 (11/19) 株式会社テクノサイト (中川泰典 専務) 8 (11/26) 駿遠三菱自動車販売株式会社 (大畑勝慶 社長) 9 (12/03) 株式会社サンロフト (松田敏孝 会長) 10 (12/10) フジ物産株式会社 (山崎遼太郎 取締役) 11 (12/17) 有限会社花のむらせ (村瀬将之 専務) 12 (01/07) 鈴与株式会社 (佐藤義寛 人財採用部長) 13 (01/14) 株式会社社長倉製作所 (長倉裕輔 社長) 14 (01/21) 株式会社結屋 (川村結里子 社長) 15 (01/28) 株式会社堀内電機製作所 (杉田光徳 社長) 講師の都合で、講師が変更になったり講義日が変更になったりする場合がある。				
【履修条件】	特になし。毎回の講義への積極的な参加（講師への質問など）が求められる。内職は厳禁である。発見次第、退席を命じる。				
【評価方法】	各回のコメントシート（もしくは小レポート）と講義への参加状況。但し、受講者数等に応じ、変更する可能性がある。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	なし。				
【備考】	* 毎回異なる静岡県内の企業経営者もしくは現役の管理職社員が、これまでの経験をもとに自社のビジネスとその魅力、展望について語るオムニバス形式の講義である。				
【社会人聴講生】	積極的に歓迎する。	【科目等履修生】	積極的に歓迎する。	【交換留学生】	可。

【科目名】	実用科学英語基礎編		Basic English Usage in Natural Sciences		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	火曜1限	
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	理系・文系の区別なく科学的・専門的な内容の英文を正確に読解する力を養成するため、その基礎となる英文法の理解を深めることが主要な目標。それが結果として実践的なTOEIC対策にもつながるので、TOEICの効率的なスコアアップも副次的な目標(主にp5&6対策)。				
【授業概要】	中高で習った英文法を真に受けている人も多いと思いますが、それが実は簡略版でしかなく、実用レベルでは通用しなかったり正確な理解の妨げになったりすることは意外と知られていません。そうした点を多くの具体例を挙げて解説し、大学受験の先にある研究・仕事や留学に活かせる実用版英文法への橋渡しをします。一方、共通テストで英文法問題が廃止された影響で文法理解を深めないまま入学してくる学生が増えているようなので、従来の学校英語の復習も強化しています。細部で辻褄が合わない学校英語の単なる学び直しではなく、改めてその問題点を認識し、さらには感覚ではなく自分の頭で考えて論理的に英文法を理解できるように解説します。英語と日本語を適切に比較することで難解な専門用語やネイティブ感覚に頼らずに英文法の要点を整理し、さらには日本語の理解も深められるような講義を目指しています。				
【授業方法】	対面授業が原則。授業時数の半数を超えない範囲で学生自ら調べ考える遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。 ※詳しいことはUNIPA授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	1. ガイダンス：講義予定、効率的なTOEIC対策と推薦図書について 2. 桁が大きな数字の聞き取り：簡単な秘訣を知るだけで大きく改善(軽くウォームアップ) 3-6. 学校英語の復習：TOEICパート5&6対策も兼ねた文法解説 7-8. 前置詞・副詞：at, in, onの比較(使い分けの基準、特に日本人が間違いやすいonの深掘り) 9. 現在時制と現在進行：「do=する、be doing=している」の問題点(日本語とのズレ) 10. 過去時制：現在時制との共通点と相違点、仮定とは違う仮定法の本質 11. 現在完了：現在・過去との対比でしか見えない本質、日本語に基づく整理法 12. 未来時制：「will=つもり・だろう」説明の問題点、be going toの本質(willとの役割分担) 13-14. 可算不可算：「数えられるか否か」説明の問題点、数え方の和英比較、主語・動詞の単複一致を深掘り 15. まとめ ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細はUNIPA授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	中高とは視点が異なる論理的な文法解説に興味がある人、英文法が好きな人や好きになりたい人を歓迎。理解度には個人差が付きものですが、個々のレベルに合わせて得られるものがあるはず。過去3年間の平均では受講者が約90名、うち文系が約6割で理系が約4割、1年生が約2/3で2~4年生が約1/3。参考までに、受講生からは「中高と違う説明で疑問解決/面白い/新鮮/迷ったが受講して良かった/英語の深いところまで学べた/英語の見方が変わった/留学にも実用的/英文法に悩んでいる人にオススメ/TOEIC対策にもオススメ/塾講師として指導に活かせる/非常に学びが多い/毎回充実/ネイティブ 感覚の言語化」などの感想を多くいただいた一方で、少数ながら「学校英語と違って難しい/時間がかかって大変」というご意見も(感想には個人差あり)。				
【評価方法】	成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には3分の2以上の出席が必要。				
【テキスト】	「TOEIC L&Rテスト 英文法 出るとこだけ!」 小石裕子 著 [アルク] (他に、必要に応じてプリント等を適宜配布)				
【参考書】	UNIPA授業資料で紹介予定				
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC対策:p5&6コツ解説&演習と簡便なp2演習 2. 基礎生命科学II:主に1~2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初~中級、TOEIC初~中級) DUO語彙演習:汎用性が高いテキストを使って英単語力を維持強化(単語力が低下した上級生も対象、TOEICにも有効) VOA英文和訳&英作文演習と個別的文法解説:3~4年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 TOEICp2,p3&4対策は任意受講の予定 (どの演習も基本的に前期の基礎生命科学Iの継続) ※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的な文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1~4即効テク解説、p2~4熟練スキル演習&解説 4. 基礎生命科学I:後期の基礎生命科学IIの前半に相当				
【社会人聴講生】	可 (要相談)	【科目等履修生】	可 (要相談)	【交換留学生】	Possible (可)

【科目名】	健康イノベーション教育プログラム		Health Innovation Education Program		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	新井英一				
【担当教員】	合田敏尚、森本達也*、新井英一*、賀川義之、市川陽子、西野勝明、岩崎邦彦*、大久保あかね*、上野雄史、東野定律、落合康裕、国保祥子、宮崎晋生、武藤伸明、渡邊貴之				
【授業目標】	現代における健康課題と健康寿命の延伸に向けた「健康食」のニーズを理解し、健康長寿社会の形成に向けた新たな産業をどのような視点で創出し、展開するかを構想を促すとともに、新たなビジネスモデルを考案するために必要な、多角的・俯瞰的に考える能力や、IT技術の活用に必要な基本的知識や考え方を身につけることを目標とする。				
【授業概要】	地域の食関連産業（食品製造業、飲食、ヘルスケアなどのサービス業など）の発展を推進する人材の育成を図る静岡県の「健康イノベーション教育プログラム」に位置付けられた科目である。イノベーションやマネジメントなどの中核を担うために必要となる、文理融合による俯瞰的な能力を培うことをめざし、１）健康と食、２）地域産業とマーケティング、３）地域創生とビジネス、４）ITとデータサイエンス、の４つの視点から、健康長寿の地域社会の創生にむけた健康福祉および経済産業における課題と、その課題解決のための取り組みの視点を学ぶ。 視点１（健康と食）では、現代社会における栄養の過剰（生活習慣病）と不足（やせ、虚弱）という栄養障害の二重負荷と、それと関連した疾患の発症・進展抑制の課題を取り上げ、その解決に向けた食品成分の活用法や「健康食」普及のアプローチが紹介される。視点２（地域産業とマーケティング）では、食関連の産業集積とイノベーション、食関連産業のマーケティング、ガストロノミー・ツーリズム（美食観光）の世界的潮流と日本での可能性、企業に求められている社会的責任についての講義を通じて同産業の現状・課題・対応策を検討し今後の発展を展望する。視点３（地域産業とマーケティング）では、食関連産業において今後、求められる新たなビジネスモデルについて、ヘルスケア産業が抱える問題点、ファミリービジネス、ソーシャルビジネスを生み出すプロセス、新たな産業のエコシステムの観点から事例に基づいて論じる。視点４（ITとデータサイエンス概論）では、コンピュータが誕生してから現在までに出現した重要な基本的事項について学び、IT技術の活用についてシミュレーションなどの応用例を通じてわかりやすく説明する。				
【授業方法】	講義をオムニバス形式で行う。原則として配布プリントとスライドを用いて講義する。				
【授業展開】	<ガイダンスと概論> 1 健康イノベーション概論：健康長寿の社会と産業（合田敏尚） <視点１：健康と食> 2 医療からみた食品成分の機能（森本達也） 3 生命を律する健康食を考える（新井英一） 4 薬食同源からみたサプリメント利用の考え方（賀川義之） 5 「健康な食事・食環境」（スマートミール）認証制度（市川陽子） <視点２：地域産業とマーケティング> 6 食関連の産業集積とイノベーション（西野勝明） 7 世界で勝つ食ブランドをつくる（岩崎邦彦） 8 ガストロノミー・ツーリズムの世界的潮流（大久保あかね） 9 企業の社会的責任（上野雄史） <視点３：地域創生とビジネス> 10 健康経営とヘルスケア（東野定律） 11 ファミリービジネスの事業承継とビジネスモデル（落合康裕） 12 アントレプレナーシップ（国保祥子） 13 産業における連携の意義とオープンイノベーションの視点（宮崎晋生） <視点４：ITとデータサイエンス概論> 14 イノベーションを支えるIT技術（武藤伸明） 15 ITの応用例： 将来予測とシミュレーション（渡邊貴之）				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	ミニレポート・授業への参加度（60%）および最終レポートなど（40%）により、総合的に評価する。 全講義回数の3分の2以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	必要に応じて各担当教員が指示する。				
【参考書】	必要に応じて各担当教員が指示する。				
【備考】	・ 静岡県プロジェクトの一環として実施される「健康イノベーション教育プログラム」の一部として開講する。				
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	履修可